

小児救急電話会議システムに新機能

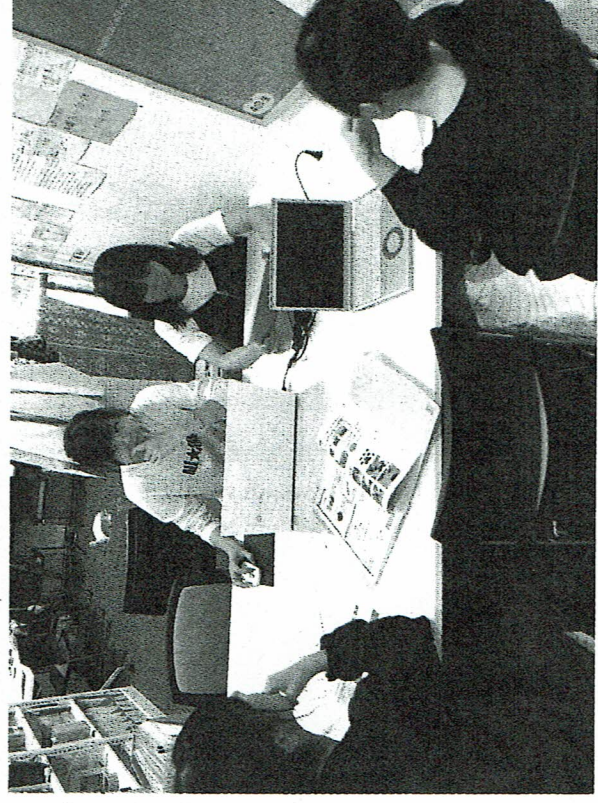
来年3月めど本格稼働

MSドリーム

医療機関向けにシステム開発を手掛けるMSドリーム(本社名古屋西区那古野、浅野美香社長、電話052・715・9939)は、小児救急専門医向け電話会議システムの機能を拡充する。従来に比べ、音量調整を詳細に設定でき、通話内容を自動でテキスト記録を可能にする。画像などの転送機能も加える。2020年3月めどに、新機能を追加したシステムの本格稼働を目指す。(倉科信吾)

10段階に調整 通話記録、画像転送も

電話会議システムは名古屋大学医学部附属病院、名古屋市中大学病院など愛知県内の主要な医療機関の小児科に利用されている。同システムは、小児救急患者の相談を求める医師が、専用フリーダイヤルに発信するとパソコン(PC)の画面を通じて、登録済みのスケジュール表の公開、変更機能を追加し、グループ内の医師が診察できない時に、他の医師のスケジュールを確認して患者を紹介しやすくする。



チームでアイデアを出しながら、プロジェクトを進行

このほか、未登録の医師が電話会議に途中参加を希望する際に、会議中の代表者がPC画面で確認し、未登録者の参加について許可するかなんかを決定できるようにする。

同社は現在、同社女子大学とシステム改良で共同開発を進めている。あいち小児保健医療総合センター(大府市)とは、実証実験も行っている。

浅野社長は「より使いやすいシステムを構築し、他の医療分野や、県外でも利用してもらいたい」と話している。

ヘルスマネジメント

番号を持つ複数の医師とリアルタイムに通話できる。救急患者の適切な受け入れ先を迅速に探せる「命をつなぐシステム」として、高い評価を受けている。

今回、「システムの利用者である医師からの要望に応え、新機能を追加することにした」(浅野社長)。

音量調整では、従来の3段階から10段階に増やし、より聞き取りやすいシステムにする。また、患者の画像転送機能も加え、搬送先の医師が迅速に対応できるようにする。さらに、医師



突然我慢できないに襲われたり、下痢つたり。そんな症抱え、すぐにトイレに駆け込めない電車やバ移動に不安を感じる少なくない。どうも悩みを解決できるんだか。

便意をコントロールする第一歩は、まず排便の仕組みをしっかり理解することが重要になる。胃に食べ物が入ると「大蠕動(ぜんどう)と呼ばれる大腸の収縮が始まる。その後、便が移動して肛門まで直腸を刺激、脳に伝って便意が生じるといわれる。

大蠕動は朝食後に起こりやすく、朝の移動時、便意が来やすい場合は会社や学校に着いてから食を食べるようにすとい、「いい」と腸疾患に悩



「慢性的な炎症を起す腸一度は内視鏡検査を」と語